

東京医療保健大学大学院看護学研究科シラバス2025

科目番号	51005	分類		履修者	高度実践看護コース	学年	
科目名	フィジカルアセスメント学演習 (Advanced Physical Assessment)					1	
						配当セメスター 前期	
担当者	○浦中桂一 他6名	区分	必修	単位	2	カリキュラム 60	
						特定行為研修（実時間） 研修対応時間 45.5	
授業の概要および目標					学位授与の方針と関連		
【概 要】 高度実践看護師がクリティカルな状況にある患者の健康問題を解決する上で必要とされる、身体的・包括的な機能評価のためのフィジカルアセスメントの方法を学ぶ。 具体的には医学的な知識を用いた問診・視診・打診・触診・聴診など、フィジカルアセスメントに共通する診察方法を理解し、系統的なフィジカルアセスメントの技術を身につける。さらにクリティカル領域で遭遇する症状に応じたフィジカルアセスメントの技術を身につける。 【目 標】 1. フィジカルアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。 2. 系統的にフィジカルイクザミネーションを実施し自己の課題を明確にする。 3. クリティカル領域で遭遇する症状に応じたフィジカルアセスメントを理解し自己の課題を明確にする。					○	1	クリティカル領域における患者の状況を総合的に判断する能力
					○	2	クリティカル領域における患者に必要な治療を実践できる能力
						3	患者に安心・安全な医療をタイムリーかつ効果的に提供するために医師等との協働ができ、ネットワークを推進できる能力
						4	専門職としての倫理的意思決定能力
						5	高度看護実践者として、教育的経営的な視点をもつトップマネジメント能力
						6	臨床実践に潜む暗黙知を形式知へと創出する研究開発能力
					○	7	クリティカル領域における患者の危機的状況を支援する能力
授業計画							
回	内容					担当教員	
第1回	＜身体診察基本手技の理論と演習・実習＞					浦中 他6名	
第2回	Ⅰ. フィジカルアセスメントの概要と基本技術						
第3回	1) 問診・視診・打診・触診・聴診 2) 全身状態とバイタルサイン・意識の観察						
第4回	＜部位別身体診察手技と所見の理論と演習・実習／身体診察の年齢による変化（小児・高齢者）／状況に応じた身体診察（救急医療・在宅医療）＞						
第5回	Ⅱ. フィジカルアセスメントの基礎						
第6回	1) 頭頸部の観察 頭頸部						
第7回	2) 胸郭・呼吸器系の観察 胸部						
第8回	3) 循環器系の観察 全身状態とバイタルサイン						
	4) 腹部・消化器系の観察 腹部						
	5) 脳神経系・運動器系の観察 四肢・脊柱/神経系						
第9回	Ⅲ. フィジカルアセスメントの方法						
第10回	1) 外皮系の観察・高齢者アセスメント						
第11回	全身状態とバイタルサイン（小児/高齢者）						
第12回	2) 腹部・消化器系の観察の実際 腹部						
第13回	3) 胸郭・呼吸器系の観察の実際 胸部						
第14回	4) 循環器系の観察の実際 胸部/全身状態とバイタルサイン						
第15回	5) 頭頸部の観察の実際 頭頸部						
第16回	6) 脳神経系・運動器系の観察の実際 四肢・脊柱/神経系						
	7) 生殖器系の観察の実際 乳房・腋窩・腋窩上リンパ節の観察、泌尿・生殖器/乳房・リンパ節						
	Ⅳ. クリティカル領域で遭遇する症状に応じたフィジカルアセスメント						
第17回	1) 呼吸器症状のある対象へのフィジカルアセスメント						
第18回	2) 循環器症状のある対象へのフィジカルアセスメント						
第19回	3) 神経症状のある対象へのフィジカルアセスメント						
第20回	4) 消化器症状のある対象へのフィジカルアセスメント						
第21回	5) 骨、筋肉に症状のある対象へのフィジカルアセスメント						
第22回	Ⅴ. クリティカル領域で遭遇する事例を用いたフィジカルアセスメント						
第23回	1) 腹痛を主訴とした患者へのフィジカルアセスメント						
第24回	2) 頭痛を主訴とした患者へのフィジカルアセスメント						
第25回							
事前・事後学習	事前学習：当日の課題に関し参考図書の内容を予習し理解して授業に参加する。 事後学習：授業の内容を配布資料と参考図書等で復習する。 単位と時間数に応じた学習時間（学生便覧参照）を参考にすること。						
評価の方法	授業の参加度（プレゼンテーションの内容等）、筆記試験（70％）、技術演習における観察評価（30％）で総合的に評価する。フィードバックは適宜行う。						
参考図書・資料等	◎1) Lynn S. Bickley著／福井次矢・井部俊子監修：ペイツ診察法、メディカル・サイエンス・インタナショナル、2022。 ◎2) 古谷伸之編：診察ができる Vol.1 身体診察 第1版、メディックメディア、2023。 ◎は授業の必携図書ですので、購入していただきます。						
備考	オフィスアワーについては、学生便覧を参照し、教員と日程調整をする。						